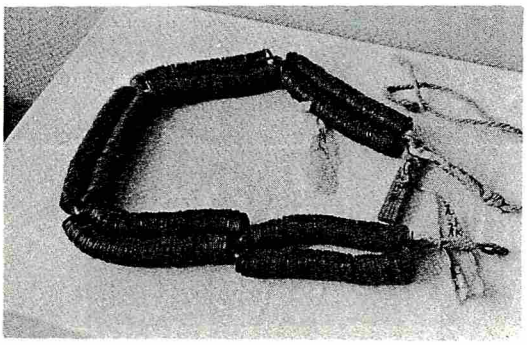
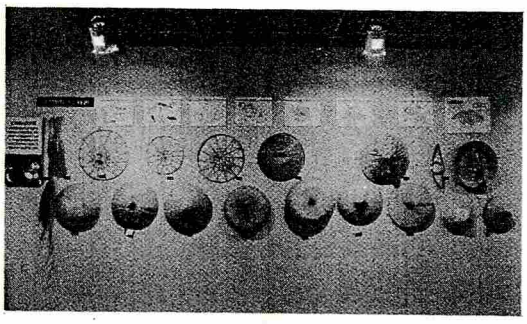
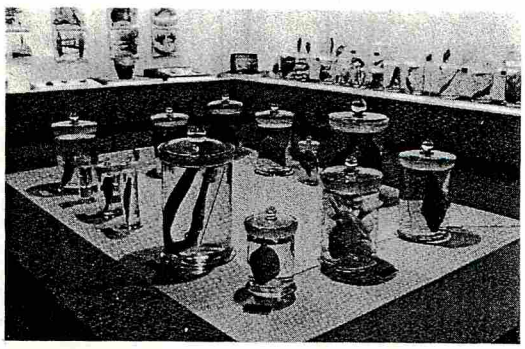
収蔵資料展

（実施期間　昭和52年7月3日～12月21日）







(1)　展示の目的

博物館の仕事にはいろいろあるが、資料収集もその一つである。当館も準備室以来県民各位の協力のもとに資料収集につとめ、今まで凡そ4万5千点を収蔵することができた。現在それらを調査研究し、その位置づけや価値を分析しているが、この展示ではそうした資料を広く紹介することを主なねらいとした。

(2)　準備と計画

性急な計画であったため、何をどんな形で展示するかが当面の課題となったが、5月上旬になって、工芸を除く全部門参加のもとに二期に分けて実施することにした。従ってレイアウトも展示資料も各部門の責任分担とし、予算的にも制限があるので十分工夫するようすすめた。

(3)　展示内容

前期　7月3日～9月18日

＜むかしのおかね＞　中国戦国時代の刀銭・布銭　和同開珎　元祐通宝　秋田川尻銭　銅山至宝　波銭

＜旅と絵図＞　秋田六文郡絵図　院内関所絵図　高札　御城下絵図　道中笠　道中合羽　矢立　旅枕

＜日本画＞　男鹿半島

＜笠とみの　けら＞　十文字町仁井田のすげ笠、増田町戸波のみの・けら、角館南高寄託資料

後期　10月1日～12月21日

＜男鹿・八郎潟の遺物＞　石槍　須恵器　中世陶器　注口土器　石ヒ　石鏃　縄文晩期鉢

＜鳥と魚、貝としだ＞　鳥の剝製標本　カニの乾燥標本　魚の液浸標本　しだ類の腊葉標本

＜岩石と鉱物＞　鉱物標本　岩石標本　鉱石標本

以上の小テーマにもとづき、それに合わせた資料によって構成した。

(4)　展示の成果

第二展示室のケースは奥行き1m20cmに格一されているため、立体展示に不適であり、更にガラスに入れた標本をガラス張りの中に入れることも効果的でなく、そうした点では苦労した。従って展示の技術的な面は今後更に工夫を要する。しかし来館者の反応としては、いろいろな資料を紹介したこともあって性急な展示にしては好評であった。館としては収蔵する資料の質と量が今後の課題として残ろう。　（塩谷順耳）